*(注 1）地球の平均気温上昇を 1.5 度未満に抑えるために排出できる炭素予算を人口比で計算すると 2030 年に 46%では、2030 年以降早々に使い切ってしまいます。

**(注 2) カーボンプライシングとは、二酸化炭素（CO2）などの温室効果ガスの排出に価格を付け、排出量に応じたお金を企業などに負担してもらう仕組みです。価格を付けることによって温室効果ガスの排出に伴う社会的費用を「見える化」することができ、よりエネルギー効率の良い技術・製品の普及や排出量を削減する効果が期待されます。カーボンプライシングの代表例としては、炭素税、排出枠取引、国境調整措置が挙げられ、様々な国・地域で導入され、または導入に向けた検討が行われています。また、IMF や世界銀行などの国際的な機関によれば、2050 年までにカーボンニュートラルを実現するためには、カーボンプライシングにより、炭素の排出にコストがかかる経済的な仕組みを世界的に導入することが必要だと言われています。